輸送経済　平成27年（2015年）4月21日（火曜日）

トランストロン

温度取得、より多様に

運行支援で新サービス

富士通グループのトランストロン（本社・横浜市、大岡信一社長）はネットワーク型デジタルタコグラフ（運行記録計）で使える運行支援サービス「ＩＴＰ-ＷｅｂＳｅｒｖｉｃｅ」に温度データ収集機能を追加した。

主要メーカーが販売する冷凍機コントロールパネルや、温度センサーで集めた情報を保存するデータロガーと車載機を初めて連携。富士通のネットワーク、クラウドサービスと組み合わせることで、冷蔵・冷凍車の荷室温度を営業所でもリアルタイムに管理し、事業者の品質向上を支援する。

営業所も荷室内を常時確認

三月三十日から新サービスの提供を始めた。ネットワーク型デジタコの「ＤＴＳ-Ｃ１」と、ドライブレコーダー機能を搭載した「ＤＴＳ-Ｃ１Ｄ」で利用できる。

冷凍機コントロールパネルで連携するのは、デンソー、菱重コールドチェーン、東プレの製品。一般に保冷車では、運転席周りに設置した専用パネルで荷室内の温度を調整する。だが、既存製品では荷室内の温度管理をドライバーに任せるしかなく、営業所の管理者が荷室の状態を把握する仕組みがなかった。

新サービスは、コントロールパネルと車載機をケーブルでつなぎ、荷室の冷気吹き出し口付近に取り付けたセンサーで温度を常時計測。あらかじめ設定した室内温度に異常があれば、ドライバーだけでなく営業所にも即座に伝える。

また、同じく連携を始めたティアンドディの「おんどとり」を活用すれば、さらに詳細な温度管理が可能に。同製品は荷室に設置した温度を記録する子機と無線通信し、親機（本体）が記録を収集するデータロガー。荷室で子機を自由に配置できることから、品質管理を徹底する物流企業で使われている。

顧客の要望に応え外部機器連携のメニューを広げる「ＤＴＳ－Ｃ１」

自由にセンサーが設置可能

これまでもトランストロン製のセンサーで温度を測れたが、計測場所が固定されるため、併用した場合に計測差異が生じることも。これが「おんどとり」との連携では差異が発生しない。従来必要だった配線工事も不要となり、コスト削減にもつながる。

冷凍機やおんどとりが計測した温度情報は、車載機のネットワークを使うことで営業所に居ながらリアルタイムの温度管理ができるほか、クラウドサーバーにも転送。一分ごとの記録が日報に反映される。

冷凍機メーカーのコントロールパネル、おんどとりからそれぞれ二つまで温度情報を取得できる。「今回の連携は、顧客の強い要望を現行のサービス価格のまま実現したもの。顧客の求める場所で正確な温度管理が可能になり、さらなる品質向上につながる」（情報機器事業推進部）。

サービス利用料はＤＴＳ-Ｃ１の場合、運行支援、動態管理、Ｑ＆Ａなどを含め、月額二千三百六十円（税抜き）。外部機器の購入、連携ケーブル、取り付け工事などは別途費用が掛かる。

問い合わせ先はトランストロン情報機器営業部、電話０４５（４７６）４６４０。

（小林　孝博）